

身近にある水の大切さ

東久留米市立南中学校

一年二組 田中 唯斗

僕は、夏休みに入ってすぐにサッカーの合宿に行きました。宿舎からグラウンドまでの道に湧き水がありました。そして、その湧き水を水筒に入れて、練習の時の水分補給に活用していました。高地千三百メートルの場所でトレーニングはハードでしたが、その湧き水が体の隅々まで行き渡り、身体が回復していきました。

普段当たり前に存在している水について改めて深く考える機会になりました。

僕の家付近には、落合川と南沢湧水群があります。小さい頃から夏の楽しみの一つでもあるのが落合川での川遊びでした。水はとても澄んでいて、ザリガニやカワムツ、コイ、絶滅危惧種のホトケドジョウなどの生物たちが暮らしており、都内唯一の名水百選に選ばれました。

今ではたくさん生物たちが生息するほど
きれいな落合川ですが、以前はドブ川のような汚さだったと聞いた事があり、とても驚きました。

東久留米はもともと水の町だ。たと思われ
ます。僕の母校である東久留米市立第三小学校の校歌にはこんなフレーズがあります。

「あふれる泉 きらきらと」

このことから、以前から水と共存している町であることが分かります。

しかし、川の周りにたくさん人が住むよ
うになり産業が発達するようになったため、
川の水もどんどん汚れていったそうです。

川は、自然に水をきれいにする働きをも
ています。でも、それは川に流れこむ汚れた
水がわずかであつた時代のことです。川自身
が汚れると自然の生物が少なくなり、いこ
いの場として親しまれている水辺はなくな
ってしまします。そして、その汚れた水を飲
み水

として使わなければなりません。では、なぜ現在の落合川のようなきれいな川へとなっていったのでしょうか。僕は知りたくなり、調べることになりました。

それは、地域の人や行政、企業の人々の努力によるものでした。川がまた汚れていた頃行政や企業が下水道の整備、川の改修、湧水による自浄作用などの改善に必死で取り組んでいました。また、この水辺にかなりたすぺースをめぐって、市民と行政のかなりの

やり取りがあったと記録されているそうです。人々の努力で川がどんどんきれいになっていき、みんなが楽しく遊べるまでにもなりました。ほとんどのきれいな川になっっているのは、とても気持ちよく、改善に取り組んでくれた人々に感謝するべきだと思います。これらのことでも、多くの市民が川を自分たちの生活に不可欠な資源として認識し、行政なり企業に勝手なことをやらせないような姿勢が人々が安全で安心して水を活用したりするうえで、

大切だと思えます。これは東久留米のことに
も限らず、地域と川のつながりなどについて
も、と関心をもちたいと考えます。

以前から現在への川の変化は、以前の人々
の改善に対する努力の結果だと思えます。そ
の姿勢も含めて今の私たちもうまく受け継げ
るよう、日頃から市民達が水に限らず、欠
かせない改善やよりよくするためへの姿勢な
とを意識していくことが大事です。身近にあ
ることが当たり前のよう感じている、以
前では当たり前ではなかつたことも少なくな
いと思えます。

そのため、僕達が今できることは何でし
ようか。洗剤の量を減らす、植物を増やす、
トイレを減らす、水を大切に使用すること。安
全な水をなくさないために、できる事から努
力していきたいと思えます。

今回の作文で初めて真剣に水と向き合うこ
とになり、改めて味わった水はいつもより美
味く感じました。